
「もっと使える」道路への パラダイム転換

東京大学教授 家田 仁

(社会基盤工学)

「台で数える道路」から

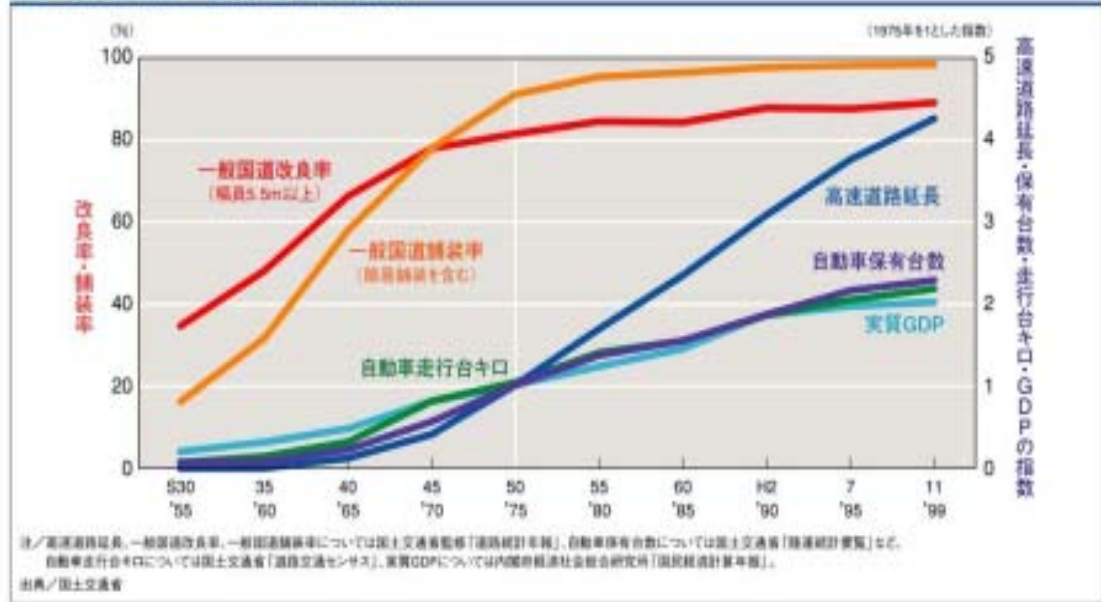
「^{にん}人で数える道路」へ

(1億3000万人が道路ユーザー)

「作ったら使え、使えるように作れ」

(ユーズ重視の道路政策)

参考資料10 道路整備の進展



参考資料12 道路の舗装率・改良率の推移





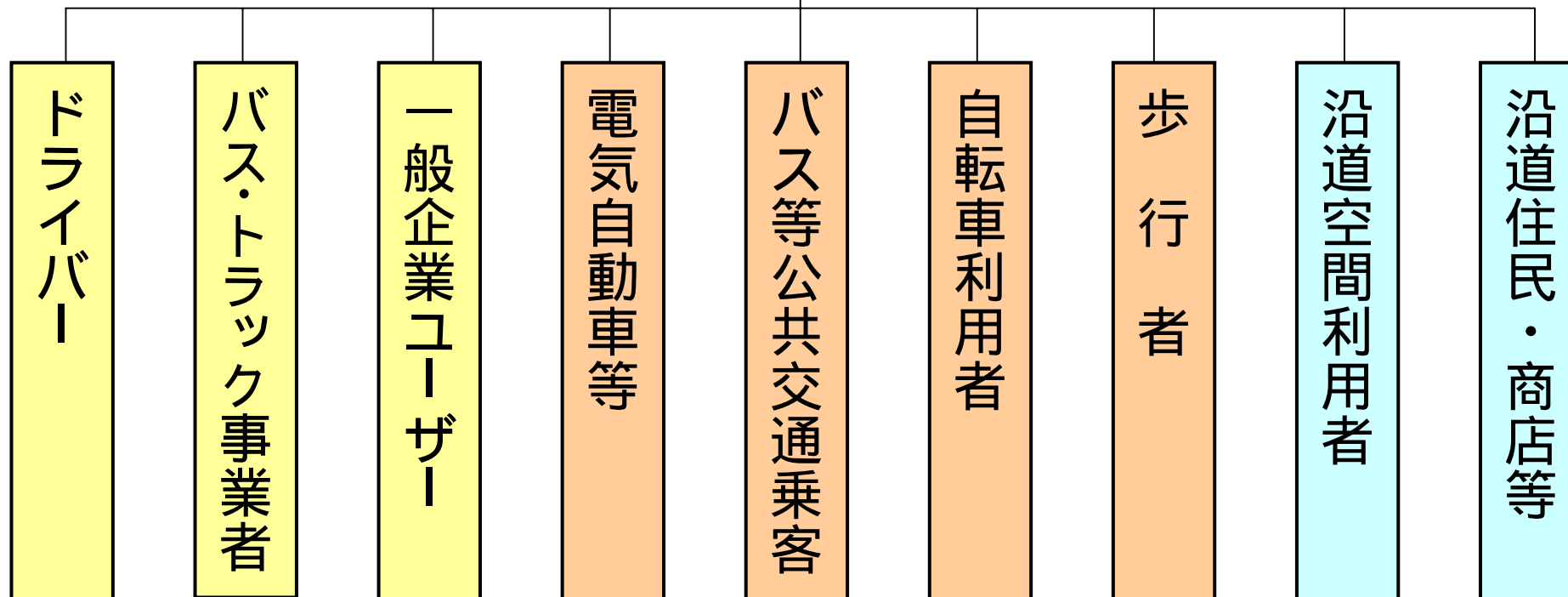








道路ユーザー（1億3000万人）



道路関係税の
直接負担者

1 . 基本的な考え方

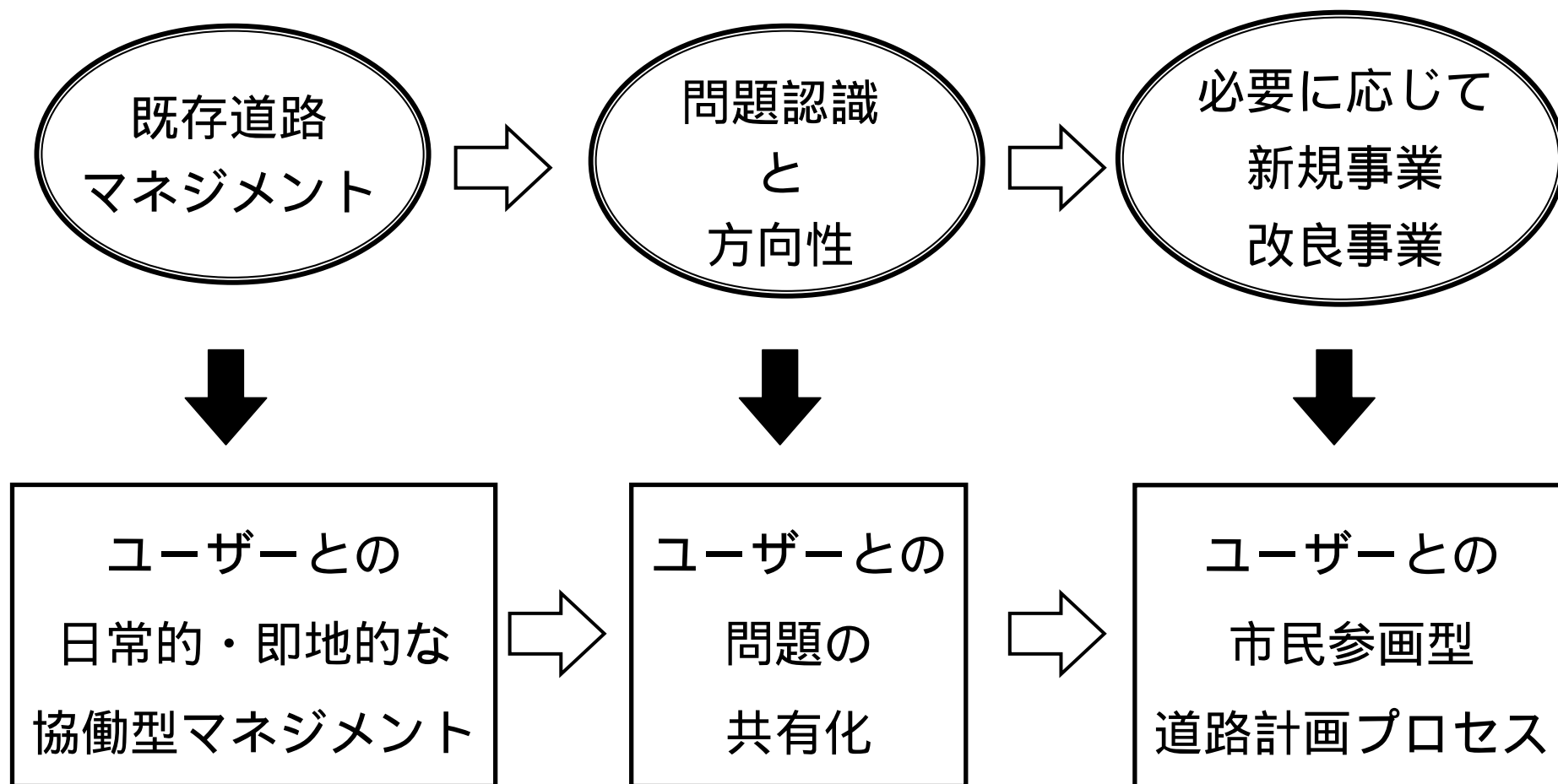
(1) 1 億3000万人が道路ユーザー

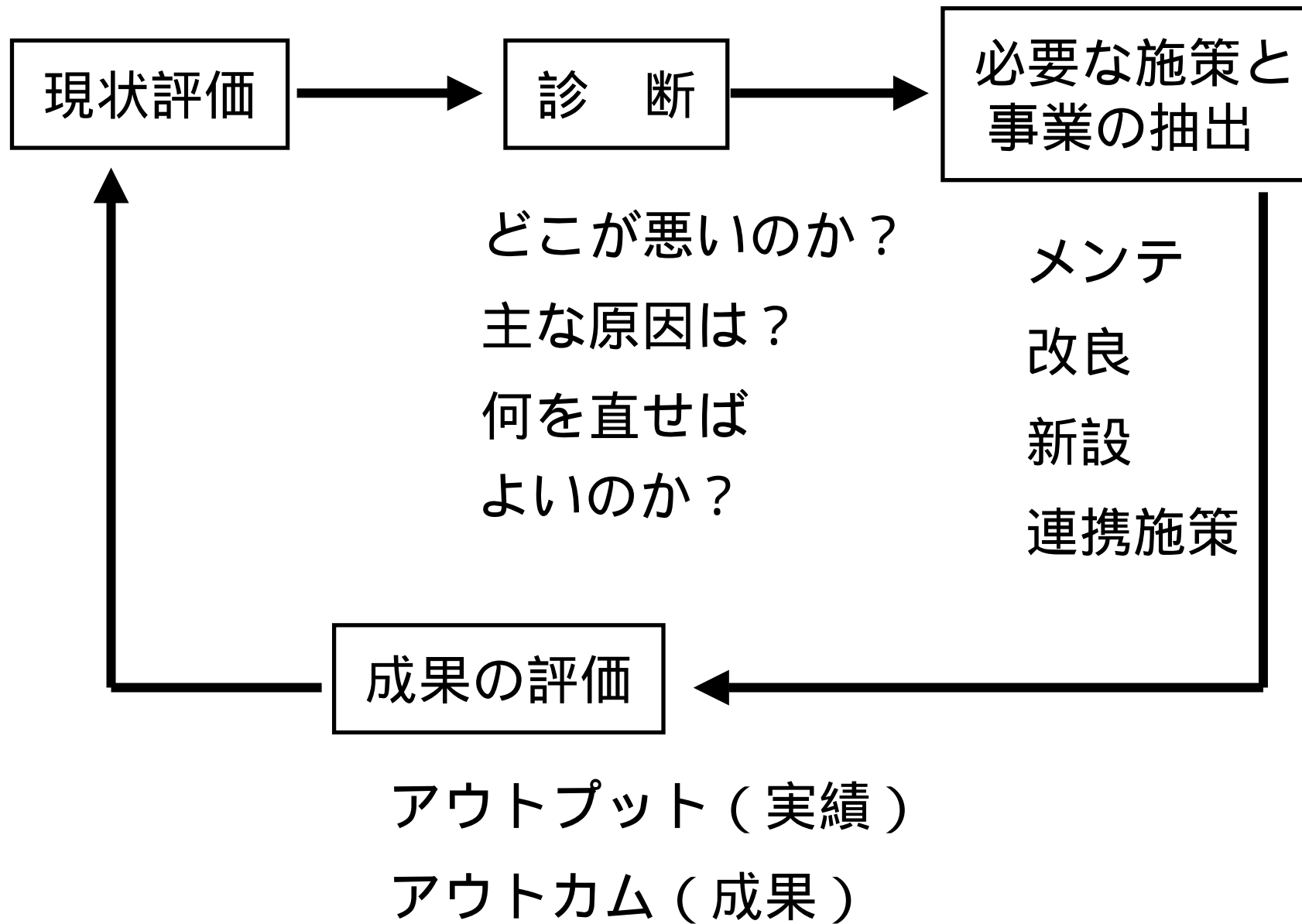
- 『道路ユーザー』 『道路関係税納税者』
- すべての道路ユーザーを満足させる道路行政へと転換が必要
- 『^{だい}台』で数える道路行政から
- 『^{にん}人』で数える道路行政へ

(2) 既存道路マネジメントが道路行政の原点

- 道路ユーザーとの協働作業による現状理解の共有化
- 道路ユーザーサービスの評価と診断システムの充実が必要
- 既存道路マネジメントを通じ、必要に応じて新規事業や改良事業

協働型道路マネジメントの重要性





協働型マネジメント

～ 英国のRMS(ルートマネジメントストラテジーズ)の例 ～

道路の「顧客」のニーズの抽出

各路線に対する道路利用者のみならず、
様々な関係団体のローカルニーズを抽出

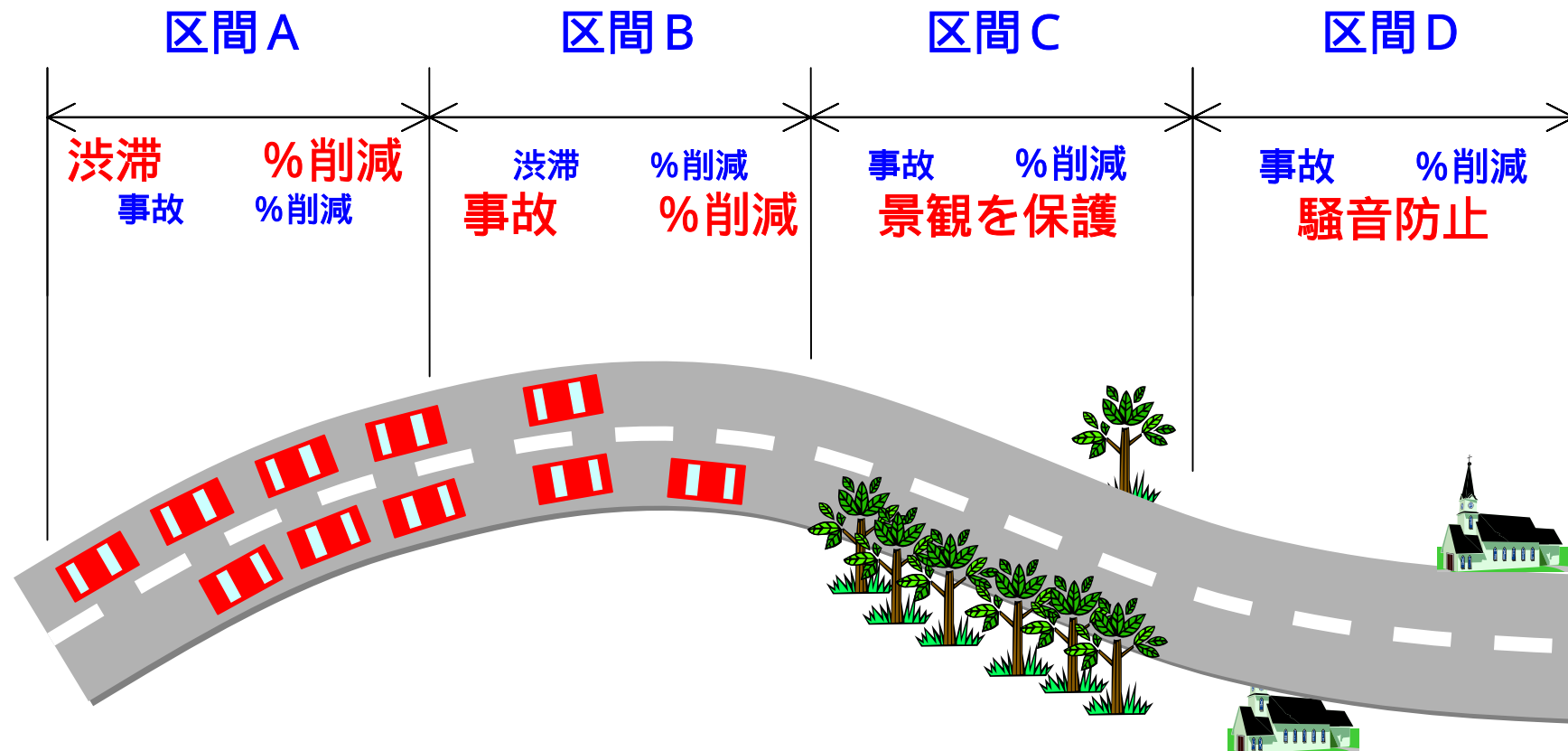


アウトカム指標を用いた区間評価

～ 英国のRMSの例 ～

区間ごとに目標を設定

ローカルニーズをもとに、区間ごとに評価し、目標を設定

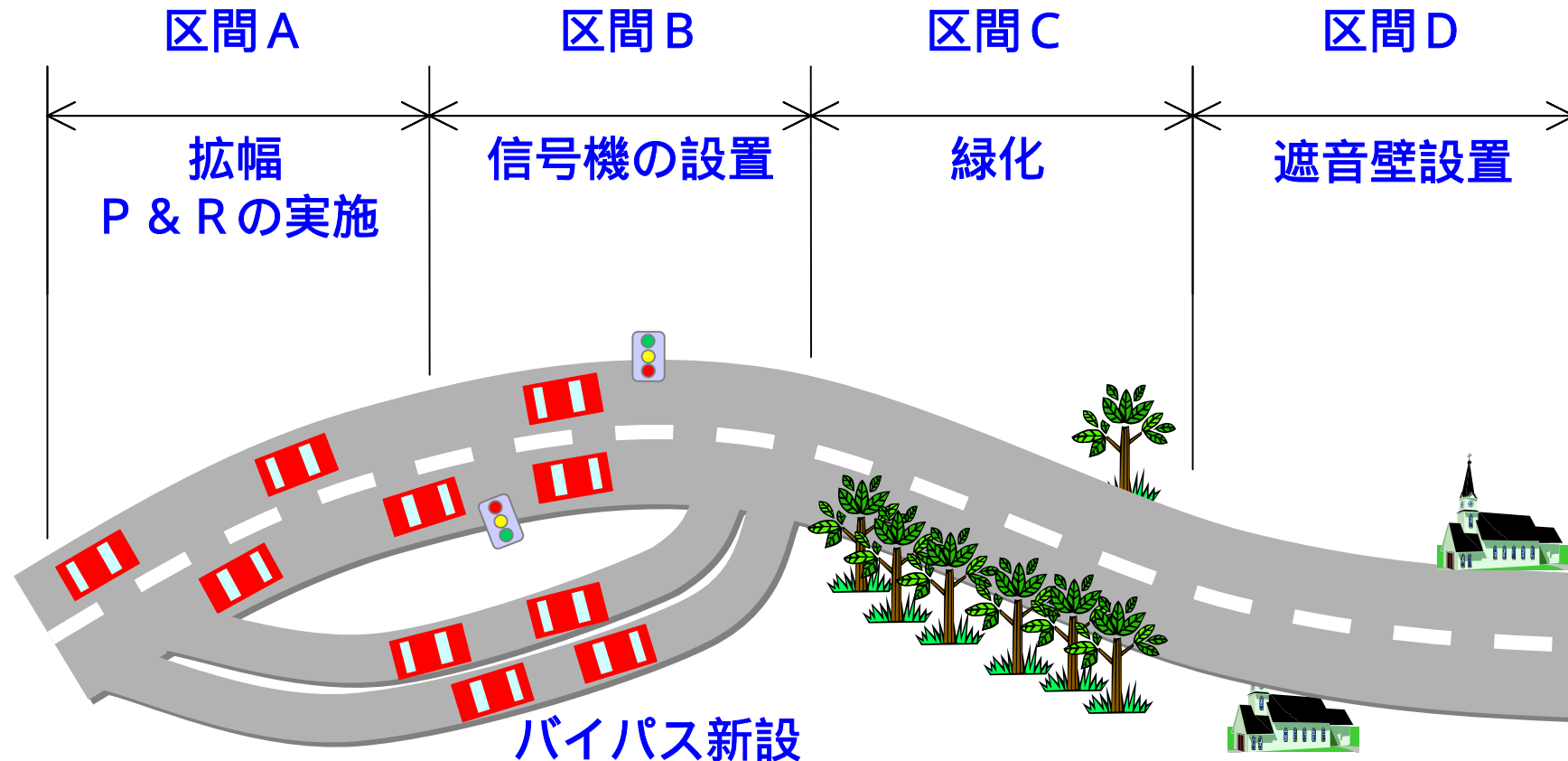


アウトカム指標を用いた区間詳細計画

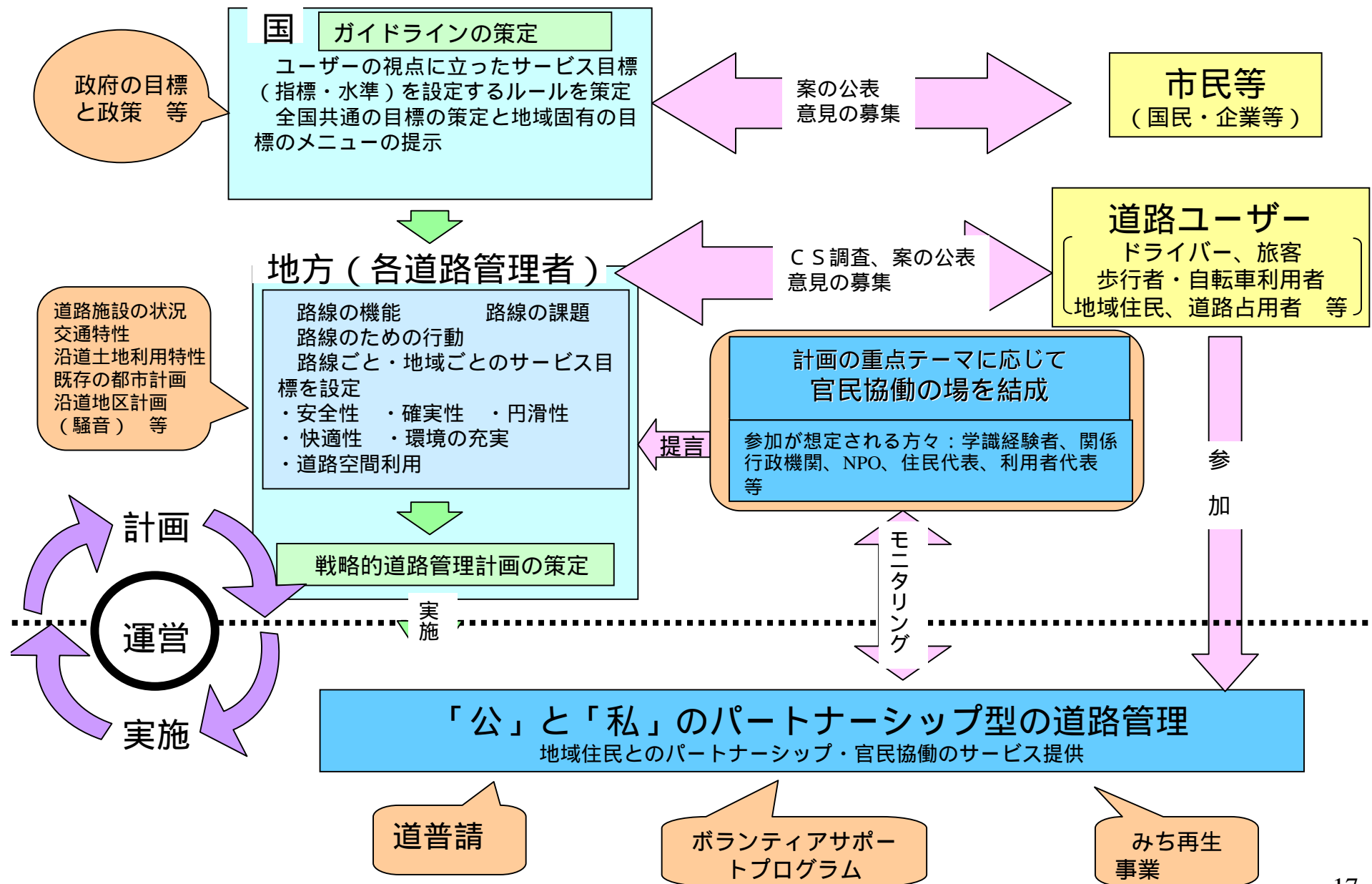
～ 英国のRMSの例 ～

即地主義的な目標に基づく計画策定

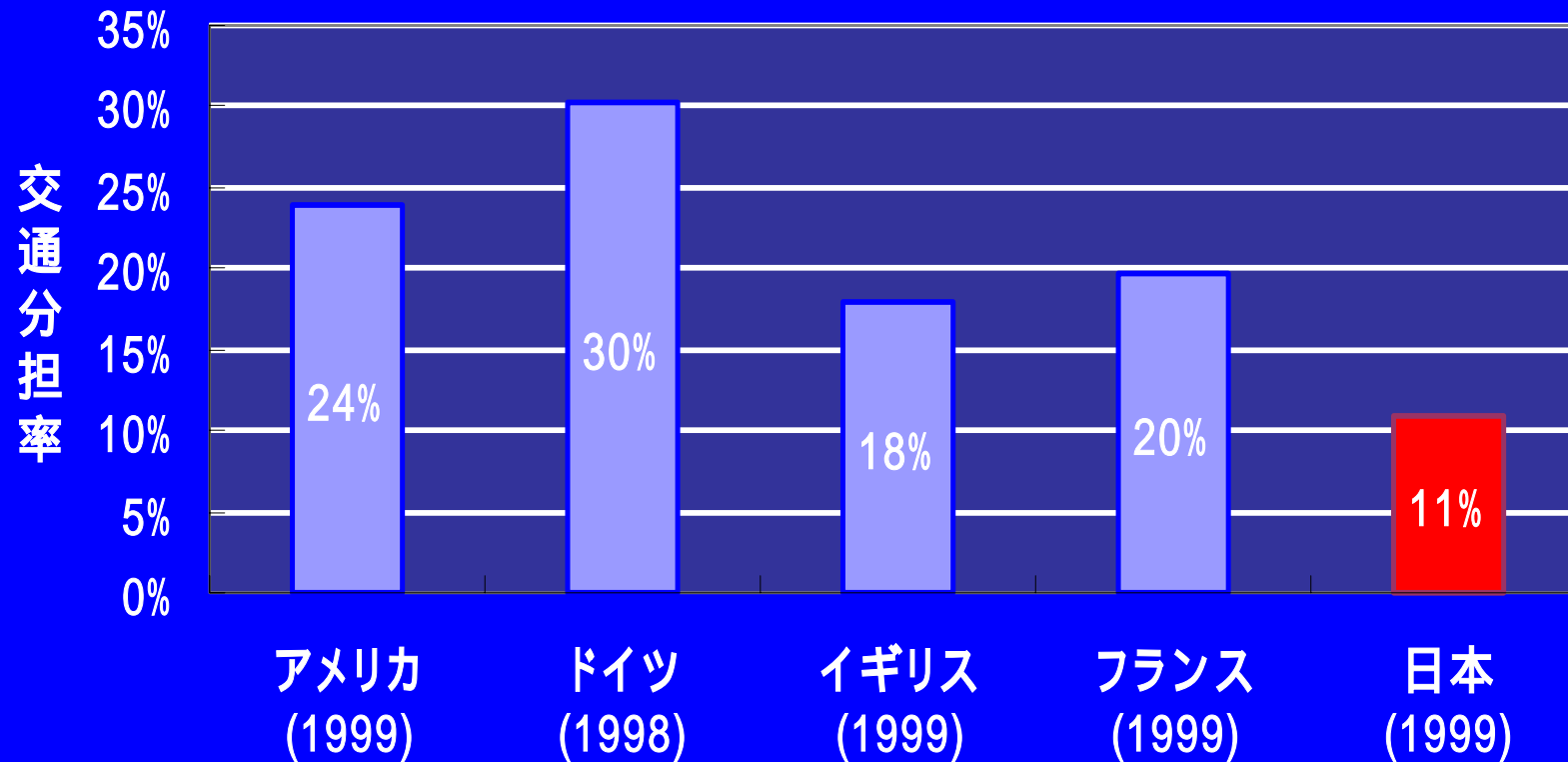
目標を達成するための区間ごとの対策計画を策定



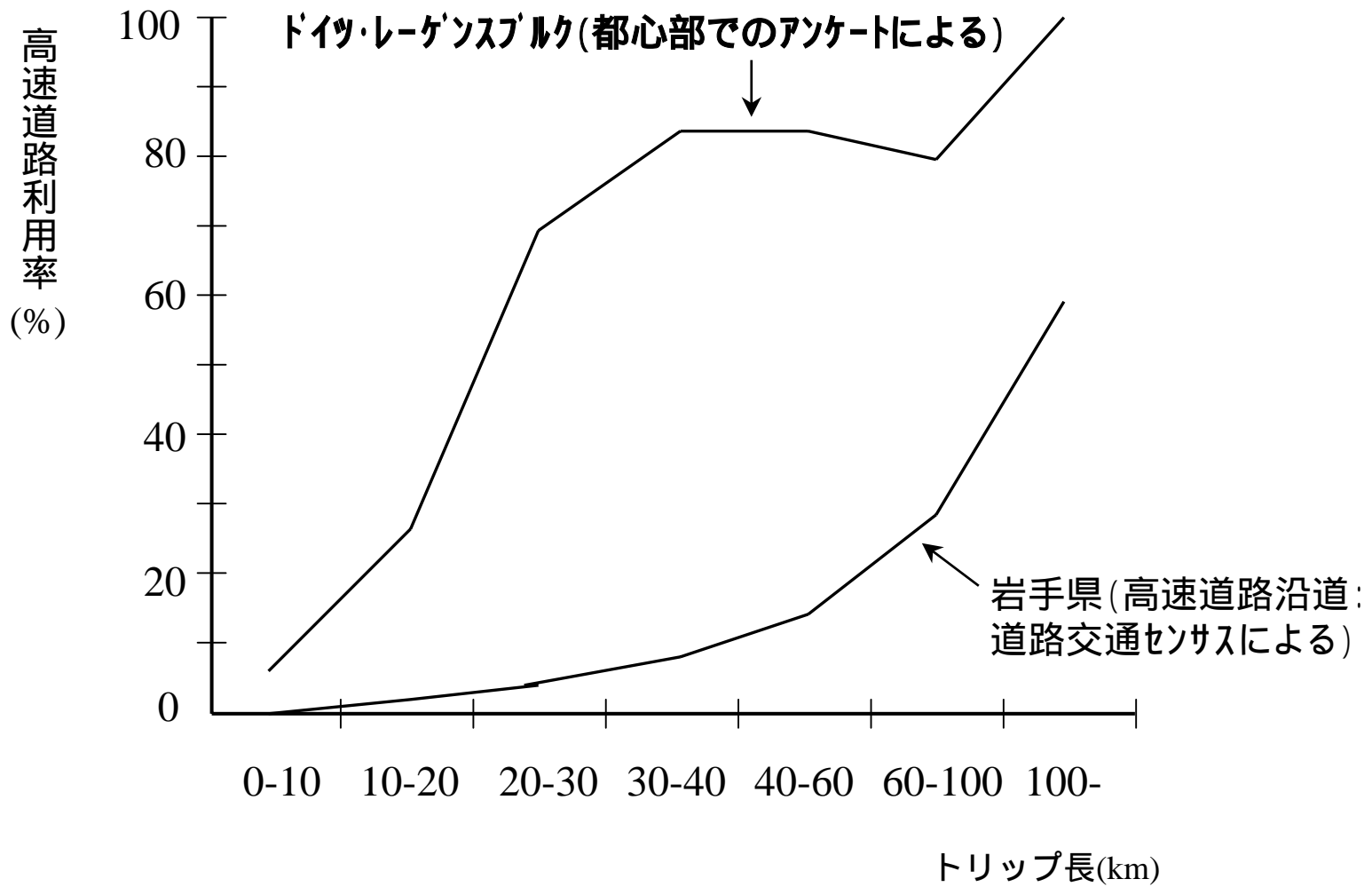
今後の道路管理（道路パフォーマンスマネジメント）



自動車専用道路の分担率の諸外国比較



出典：日本 「平成11年道路交通センサス」国土交通省、「陸運統計要覧」（平成12年版）国土交通省
アメリカ Highway Statistic2000
イギリス Transport Statistics Great Britain2001
フランス LES TRANSPORTS EN 2000
ドイツ Verkehr In Zahlen1998



トリップ長と高速道路利用率の関係